

(3) 底生生物

底生生物の調査結果の一例として、夏季の出現概要を表 5.3-8 に示す。他の季節の結果は資料編に掲載した。

事業実施区域の測点①～③において確認された出現種の構成は、季節による違いは見られるものの、概ね環形動物門に属する種の割合が高い傾向を示している。

表 5.3-8 底生生物の出現概要（夏季）

		測点①		測点②		測点③		測点④		測点⑤	
種類数 ()内は% ○内は%	軟体動物門	10	(14.7)	24	(26.4)	8	(15.1)	11	(24.4)	17	(25.8)
	環形動物門	35	(51.5)	38	(41.8)	25	(47.2)	18	(40.0)	22	(33.3)
	節足動物門	17	(25.0)	20	(22.0)	17	(32.1)	10	(22.2)	18	(27.3)
	棘皮動物門	2	(2.9)	5	(5.5)	2	(3.8)	2	(4.4)	3	(4.5)
	その他	4	(5.9)	4	(4.4)	1	(1.9)	4	(8.9)	6	(9.1)
	合計	68	(100.0)	91	(100.0)	53	(100.0)	45	(100.0)	66	(100.0)
個体数 個体数/m ² ()内は% ○内は%	軟体動物門	280	(6.4)	1,400	(20.5)	180	(8.0)	720	(37.5)	580	(14.3)
	環形動物門	2,260	(51.6)	3,280	(48.0)	1,020	(45.1)	660	(34.4)	1,060	(26.1)
	節足動物門	1,340	(30.6)	1,080	(15.8)	680	(30.1)	380	(19.8)	2,080	(51.2)
	棘皮動物門	300	(6.8)	860	(12.6)	300	(13.3)	40	(2.1)	100	(2.5)
	その他	200	(4.6)	220	(3.2)	80	(3.5)	120	(6.3)	240	(5.9)
	合計	4,380	(100.0)	6,840	(100.0)	2,260	(100.0)	1,920	(100.0)	4,060	(100.0)
主な出現種 上位5種 ()内は% ○内は%	軟体動物門	-	-	-	-	ヒナシタガミ属	(10.4)	-	-	-	-
		-	-	-	-	ニクイロサケクラ	(9.4)	-	-	-	-
		-	-	-	-	コメザケクラ	(6.3)	-	-	-	-
	環形動物門	Amphipitrite属 の一種	(6.8)	Chone属の一種	(5.6)	Ampharete属の 一種	(6.2)	Chone属の一種	(7.3)	Linopherus属 の一種	(5.9)
		Hesiospina属 の一種	(5.9)	コクピワキヤム属	(5.0)	Diplocirrus属 の一種	(4.4)	-	-	Glycera属の一 種	(3.0)
		Diplocirrus属 の一種	(5.5)	Langerhansia 属の一種	(4.7)	-	-	-	-	-	-
		-	-	Harmothoe属の 一種	(3.2)	-	-	-	-	-	-
	節足動物門	スナカキソエビ属の 一種	(6.4)	-	-	ニッポンスカメ	(6.2)	マツコエビ属の一 種	(7.3)	ウミホタル	(28.6)
		-	-	-	-	スナカキソエビ属の 一種	(5.3)	-	-	テナガワレカラ	(9.4)
	棘皮動物門	オケモヒテ科の 一種	(5.0)	コテマリカニ	(7.6)	オケモヒテ科の 一種	(9.7)	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	タテホムシ属の一 種	(3.9)	-	-

注) 主な出現種は個体数に対する上位 5 種を示す。個体数が同じ場合は湿重量を優先させた。調査日：令和 5 年 7 月 13 日

(4) 魚類

魚類の調査結果の一例として、夏季の出現概要を表 5.3-9～表 5.3-10 に示す。他の季節の結果は資料編に掲載した。

事業実施区域の測点①～③及び事業実施区域近傍の測点⑥～⑦については、いずれの測点においても脊索動物の構成比が高い傾向が見られた。主な出現種としては、オニオコゼ、カワハギ及びカサゴが確認されており、これらの種が優占している状況であった。

表 5.3-9 魚類の出現概要（夏季 1 回目）

項目	分類群	測点①	測点②	測点③	測点⑥	測点⑦
出現種数 () 内は%	軟体動物	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (6.3)	0 (0.0)	1 (7.7)
	節足動物	1 (7.7)	1 (5.9)	1 (6.3)	2 (14.3)	1 (7.7)
	棘皮動物	1 (7.7)	1 (5.9)	2 (12.5)	2 (14.3)	0 (0.0)
	脊索動物	10 (76.9)	15 (88.2)	12 (75.0)	10 (71.4)	11 (84.6)
	合計	13 (100.0)	17 (100.0)	16 (100.0)	14 (100.0)	13 (100.0)
出現個体数 () 内は%	軟体動物	1 (5.9)	0 (0.0)	1 (3.8)	0 (0.0)	3 (8.6)
	節足動物	2 (11.8)	1 (1.3)	3 (11.5)	3 (11.5)	1 (2.9)
	棘皮動物	1 (5.9)	5 (6.4)	2 (7.7)	2 (7.7)	0 (0.0)
	脊索動物	13 (76.5)	72 (92.3)	20 (76.9)	21 (80.8)	31 (88.6)
	合計	17 (100.0)	78 (100.0)	26 (100.0)	26 (100.0)	35 (100.0)
湿重量 g/網 () 内は%	軟体動物	20.6 (0.4)	0.0 (0.0)	164.5 (1.3)	0.0 (0.0)	1,051.0 (12.1)
	節足動物	14.4 (0.3)	69.1 (0.2)	18.8 (0.1)	128.8 (1.1)	5.4 (0.1)
	棘皮動物	119.9 (2.5)	606.4 (2.0)	114.5 (0.9)	155.3 (1.4)	0.0 (0.0)
	脊索動物	4,601.7 (96.7)	29,462.4 (97.8)	12,383.8 (97.7)	11,015.6 (97.5)	7,649.0 (87.9)
	合計	4,756.6 (100.0)	30,137.9 (100.0)	12,681.6 (100.0)	11,299.7 (100.0)	8,705.3 (100.0)
主な出現種 上位5種 () 内は%	軟体動物					タツナミカツイ (8.6)
	節足動物	ツノガニ (11.8)		アカボシヤトカリ (11.5)		
	棘皮動物		タコノマクラ (6.3)			
	脊索動物	アカエイ (11.8) オニオコゼ (11.8) ヘラガシノウビラメ (11.8) ウチワザメ (5.9)	アコギ (54.4) ウマヅラハギ (10.1) カワハギ (5.1) オニオコゼ (3.8)	カワハギ (15.4) 仔 (11.5) バセボン (11.5) キンハタ (7.7)	オニオコゼ (23.1) キンハタ (11.5) ウマヅラハギ (11.5) マダリ (7.7) カワハギ (7.7)	オニオコゼ (20.0) カサゴ (17.1) マダリ (11.4) シマウシノシタ (8.6)

注) 主な出現種は個体数に対する上位 5 種を示す。個体数が同じ場合は湿重量を優先させた。調査日：令和 5 年 7 月 13 日～14 日

表 5.3-10 魚類の出現概要（夏季 2 回目）

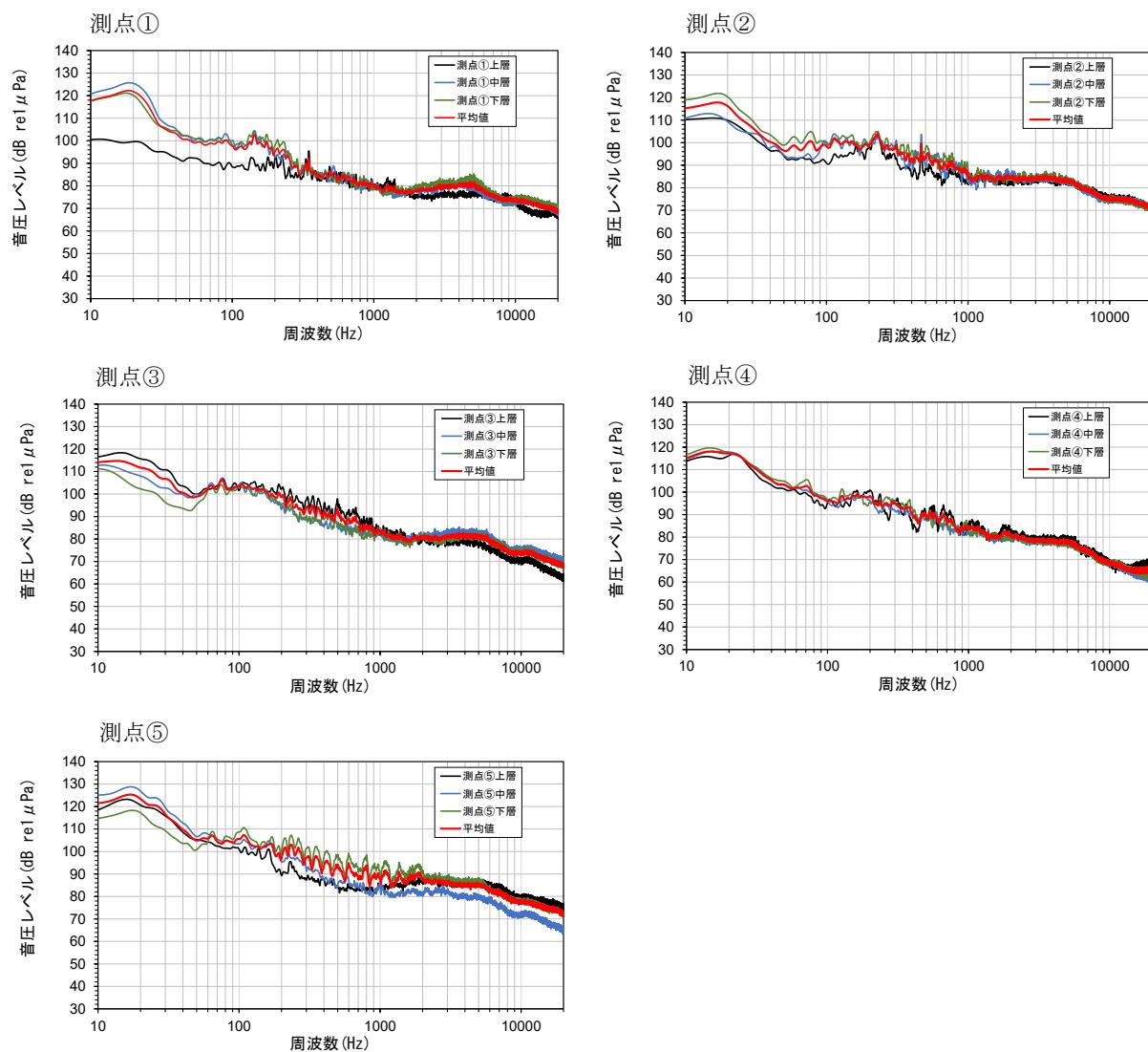
項目	分類群	測点①	測点②	測点③	測点⑥	測点⑦
出現種数 () 内は%	軟体動物	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (8.3)	1 (6.7)
	節足動物	1 (5.0)	1 (6.7)	2 (20.0)	4 (33.3)	1 (6.7)
	棘皮動物	2 (10.0)	2 (13.3)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (6.7)
	脊索動物	17 (85.0)	12 (80.0)	7 (70.0)	7 (58.3)	12 (80.0)
	合計	20 (100.0)	15 (100.0)	10 (100.0)	12 (100.0)	15 (100.0)
出現個体数 () 内は%	軟体動物	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)	1 (6.3)
	節足動物	3 (6.4)	1 (2.5)	2 (14.3)	7 (38.9)	1 (6.3)
	棘皮動物	3 (6.4)	10 (25.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	1 (6.3)
	脊索動物	41 (87.2)	29 (72.5)	11 (78.6)	9 (50.0)	13 (81.3)
	合計	47 (100.0)	40 (100.0)	14 (100.0)	18 (100.0)	16 (100.0)
湿重量 g/網 () 内は%	軟体動物	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	218.2 (7.9)	65.4 (0.5)
	節足動物	146.6 (0.8)	40.4 (0.4)	127.5 (7.6)	330.2 (11.9)	53.3 (0.4)
	棘皮動物	272.9 (1.4)	1,060.0 (9.2)	141.7 (8.5)	0.0 (0.0)	107.3 (0.8)
	脊索動物	19,026.9 (97.8)	10,386.1 (90.4)	1,406.7 (83.9)	2,217.1 (80.2)	13,162.9 (98.3)
	合計	19,446.4 (100.0)	11,486.4 (100.0)	1,675.9 (100.0)	2,765.4 (100.0)	13,388.8 (100.0)
主な出現種 上位5種 () 内は%	軟体動物				#エ (11.1)	
	節足動物	アカボシヤトカリ (6.4)			ヘニシカニ (11.1) ヘニワケカニ (11.1) スベスベマンジュウガニ (11.1)	
	棘皮動物		タコノマクラ (22.5)	タコノマクラ (7.1)		
	脊索動物	ウマヅラハギ (29.8) オニオコゼ (14.9) キンハタ (6.4) カサゴ (6.4)	カサゴ (12.5) オニオコゼ (10.0) 仔 (7.5) アイコ (7.5)	タカノハタ (14.3) カワハギ (14.3) マダリ (14.3) カサゴ (14.3)	カワハギ (16.7) カサゴ (16.7) マダリ (14.3) カサゴ (14.3)	キリンアナセ (12.5) トビエイ (6.3) エショウタ (6.3) アカエイ (6.3) キンハタ (6.3)

注) 主な出現種は個体数に対する上位 5 種を示す。個体数が同じ場合は湿重量を優先させた。調査日：令和 5 年 7 月 17 日～18 日

(5) 水中音

水中音（船上計測）の調査結果の一例として、夏季の周波数別の音圧レベルを図 5.3-4 に示す。他の季節の結果は資料編に掲載した。

周波数特性については、全測点において共通して、低周波数帯で音圧レベルが高く、周波数が高くなるにつれて音圧レベルが低下する傾向が見られた。この傾向は、既存資料⁸と同様である。



注) 調査日：令和 5 年 8 月 18 日

図 5.3-4 各測点における水中音の周波数特性（夏季）

⁸ 「次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究（要素技術実証）環境影響評価準備書」（令和 5 年 1 月、豊田通商㈱）